

# L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X で数式を書いてみよう<sup>1</sup>

## 1 複素関数の Laurent 級数展開

### 1.1 Laurent 展開

関数  $f(z)$  が円環領域  $D : r < |z - a| < R$  で正則ならば,  $D$  において Laurent 級数

$$\begin{aligned} f(z) &= \sum_{n=-\infty}^{\infty} a_n(z-c)^n \\ &= \cdots + \frac{a_{-2}}{(z-c)^2} + \frac{a_{-1}}{z-c} + a_0 + a_1(z-c) + a_2(z-c)^2 + \cdots \end{aligned}$$

に展開される. 右辺の級数は,  $r + \delta \leq |z - c| \leq R + \delta$  [ $\delta > 0$ ] で一様収束する. そして, 係数  $a_n$  はただひとつおりに定まり,

$$a_n = \frac{f^{(n)}(c)}{n!} = \frac{1}{2\pi i} \int_{\gamma} \frac{f(\zeta)}{(\zeta - c)^{n+1}} d\zeta \quad (1)$$

で与えられる. ここに,  $\gamma$  は  $D$  内で  $c$  を一周する閉曲線である.

とくに,  $a_n$  の負の項が有限個で,  $a_{-h-1} = a_{-h-2} = \cdots = 0$  ならば, 関数  $f(z)$  は  $0 < |z - c| < R$  で正則で, 点  $c$  は  $h$  の極であり, また,  $g(z) = (z - c)^h f(z)$  は  $|z - c| < R$  で正則で,

$$a_n = \frac{g^{(n+h)}(c)}{(n+h)!}$$

となる. 係数  $a_{-1}$  は  $f(z)$  の  $c$  における留数である.

### 1.2 関数 $f(z)$ の円環領域

Laurent 展開を適用する場合の, 関数  $f(z)$  の円環領域の例が図 1 である.

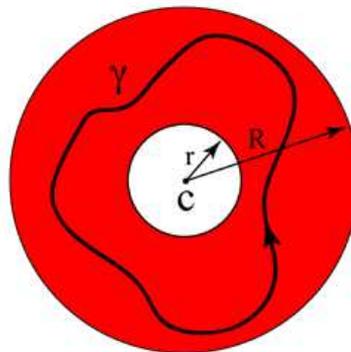


図 1: 円環領域の例.

<sup>1</sup>森口, 宇田川, 一松著, 「岩波 数学公式 II 級数・フーリエ解析」, 岩波書店より.